

学校運営協議会 会議実施報告書

「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立多治見高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和3年5月28日(金)～8月6日(金) 書面による意見交換を実施
- 3 開催場所 書面開催
- 4 参加者

委 員	安藤 直美	本校育友会副会長
	伊藤 ゆかり	本校卒業生
	小口 英二	多治見まちづくり株式会社取締役社長
	加藤 大輔	多治見青年会議所理事長
	高橋 美和	本校育友会副会長
	本田 幸司	J R東海多治見駅首席助役
	松岡 真有里	本校育友会副会長
	皆元 健一	多治見市役所企画部防災課 兼移住定住推進室課長代理
	村松 敦子	多治見市養正公民館館長
学 校 側	白石 秀史	校長
	吉田 浩之	教頭
	小栗 啓茂	事務長
	田並 正	教諭(教務主任)
	星野 益也	教諭(生徒指導部長)
	堀 裕邦	教諭(進路指導部長)
	可知 幸則	教諭(特別活動部長)
	丸山 真	教諭(保健厚生部長)
	河田 雅伸	教諭(教務部)

5 会議の概要(協議事項)

(1) 学校目標・マニフェストについて

意見1：学力の向上だけでなく、教科指導の重点にあるように、思考力、判断力、表現力等を身に付ける教育を進めてほしい。また、探究力を高めるためには、まずは地域の身近な課題等に興味を持つことが大切である。地域課題探究型学習を通して地域の課題を研究し、生徒一人一人の地域への興味を高めてほしい。

⇒ 大学入試で問われるようになった「思考力、判断力、表現力」とは、世の中や身の回りの問題・課題を、まずは「自分のこと」として考え、その上で他の人の考えにも耳を傾けた上で、新しい解決策を見出していくことと捉えている。この力を育成するためには、教科による授業に加えて、「総合的な探究の時間」でいかに取り組むかが重要である。

これに対応するために本校が取り組んでいる「課題探究型学習」は今年度県教育委

員会からの研究指定の最終年（3年目）となる。この3年で、地域と連携した取組として、①土岐川の再生、②ながせ通りの活性化、③養正小学校での英語教育、④多治見市図書館との連携、⑤サイエンスショーの実施による養正公民館との連携、の6つのゼミを実施している。地域からは他にも、おりべストリートやアニメ「やくならマグカップも」等、多数の連携依頼を受けたが、時間や物理的な問題から実現していない。今後もこの学校運営協議会委員やふるさと協議会委員の方々からの助言や支援を得ながら、本校の特色ある取組として根付かせていきたい。

意見2：生徒一人一人を大切に、個性や能力に応じて支援して頂けることに感謝する。

⇒ 生徒一人一人が個の力を発揮できるようにし、集団の中に埋没しないように、引き続きグループ学習も含めて個に応じた指導を行って、対応していく。

意見3：時代によって求められる事が変わってきているので目標はそのまま具体的な取組が見直されていくのであろうと考える。細かく基準がありよい。

⇒ 社会から求められる学力も学校活動も大きく変化してきており、新学習指導要領にもその対応の必要性が明記されている。時代とともに変化しない部分と変化させていかなければいけない部分を、目標としてまた指針として提示し、在籍している生徒の状況に応じて弾力的に活用して対応していこうと考えている。

意見4：評価指標にアンケートが多い。その方法や内容などの詳細はわからないが、生徒の意見や要望を取り入れるなどの授業改善につなげてほしい。

⇒ 改善を図るための評価指標は、具体的なものの方が改善に反映させやすいと考え、生徒や保護者の評価アンケートを採用している。また、その評価を教育活動に反映するためには、取り組む前に、教員自身が自分たちの保持する教育活動へのイメージや考えに齟齬が生じていないかを自覚した上で意識改革する必要があると考え、教員の相互評価・自己評価アンケートを実施している。

(2) 各分掌について

意見1：新しい入試制度に対応し、生徒の不安を解消するため、情報収集等に努めてほしい。また、いじめ問題については、生徒指導部だけでなく、各部の協力により早期発見、早期対応に努めてほしい。

⇒ 昨年度より入試制度が大きく変わった。共通テストにおける記述式問題や英語の外部試験の導入が見送りになり、更にコロナによる入試日程や試験方法、試験内容の変更があるなど、受験生にとって負担であった。

今年度は、現在コロナの影響は多少減少してきているが、今後どうなるかは予想がつきにくい。先が読めない厳しい状況ではあるが、生徒の進路実現のため、入試制度や大学の入試情報など、素早くかつ幅広く情報を収集して、適宜生徒へのわかりやすい情報提供を行って、支援をしていきたい。

いじめ問題については、各分掌はもちろんのこと、職員全体に周知・徹底させ、情報収集に努め、問題が起こる前に迅速かつ慎重に対応していく。

意見2：たくさんの分掌によって生徒たちが支えられていると感じた。今までになかった事が起きて変えていかなければいけない事が多いが、学校の対応に大変安心している。

意見3：コロナ禍で行事が予定通りできず、クラス一丸となって取り組む経験が少なくなり残念である。また毎日マスクで表情もわかりにくく、先生方の苦労もあると思う。アクティブラーニング型授業について、主体的で協働的な学びをぜひ進めてほしい。

(3) 特色ある学校活動について

意見1：2年生でのゼミ活動は、外部からの支援もあり、視野も広がるだろうし、とても興味深く感じた。

意見2：文武両立はどこもスローガンとしてあるが、探究ゼミは特に評価を得られており、こういったものが、他にもできていけば楽しみや、やりがいにつながる。生徒の長

所を見つけるきっかけになるとよい。

意見3：コロナ禍の中でも、地域課題探究型学習は生徒にとって大きな経験値を上げることになる。本校が地域と共存し、生徒たちが地域に新しいものを生み出す力を学んでほしい。

(4) その他について

意見1：登下校中のマスクの着用について、市民から問い合わせがあった。校内だけでなく校外でも感染防止に努めてほしい。

⇒ 感染予防としてマスク着用は原則であるが、この地域の特性である高気温を考慮し、集団登下校や公共交通機関利用時以外は、熱中症対策の観点からもマスクを外しても可としている。自ら考えて、状況に応じた行動がとれるような指導をしていく。

6 会議のまとめ

- ・第1回学校運営協議会では、全委員より今年度の本校の学校運営基本方針について承認が得られた。
- ・今回得られた意見・助言を踏まえて今後の学校運営を進めていく。